生徒に見られるつまずき

　登場人物の行動描写から心情を的確に捉えることができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　様々な形態の音読をリズムよく繰り返すことを通して文章の内容を理解し、行動描写をもとに登場人物の心情をとらえるようにする

指導事例集ｐ．４７

１　学年・単元名　　第１学年　作品を読み解く

『少年の日の思い出』（読むこと）

２　単元目標

 登場人物の設定や心情・情景の描写から作品の主題を理解する。

３　単元の内容

 ・全文を通読し、感じたことや考えたこと、気になった一文など、初発の感想をノートに書き、その後、意見交流をする。

資料：活動の様子

 ・「私」と客（友人）との対話内容をとらえる。

 ・チョウやエーミールに対する「僕」の気持ちをとらえる。

資料：生徒のノート③④⑤

 ・「僕」の起こした事件と、そのときの心情をとらえる。

 ・最後の場面で「僕」がチョウを押し潰した行動について考える。

　 ・作品の中から伏線になっている表現を探し、この小説の表現の工夫について考える。

資料：生徒作文

　　・作品の読み取りを文章化し、整理する。

４　本時の目標

 最後の場面で、「僕」がチョウを押し潰した行動について考える。

５　本時の展開　**太字はつまずきに対する手立て**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 生徒の活動 | 指導上の留意点 |
| 導入 | １ 前時の学習を振り返る。２「クジャクヤママユが潰れたところか　ら母に打ち明けたところ」まで全員で　音読する。３　本時の学習目標を確認し、学習の見　通しを持つ。◎本時の学習目標　最後の場面で、「僕」がチョウを押し潰した行動について考える。 | ※座席は２人１組、つけた状態にさせておく。発表も座ったままで行わせる。○多少速いくらいのペースで、声を揃えて読　むように指示する。○本時の学習目標を確認させ、ノートに書かせる。 |
| 展開 | ４「僕がチョウを潰すきっかけになった場面」から最後までを音読する。 ①ペアで最後までを読む ②全体で最後までを読む ③全体で「ただ僕を眺めて、軽蔑して いた」までを読む　④全体で「すると、エーミールは〜軽 蔑していた」までを読む　⑤全体で「その瞬間～軽蔑していた」までを読む５　発問１について考える。発問１「その瞬間、僕はすんでのところであいつの喉笛にとびかかるところだった。」ときの「僕」が考えたことは、どんなことだろうか。 ①ノートに５行程度、考えたことを書 く。　②ペアで交流する。 ③全体で意見を交流する。６　最後の段落を音読する。　①個人で ②ペアで ③全体で ④指名による音読 ⑤全体で最後の一文を繰り返す７　発問２について考える。発問２　「チョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまった」のは、　　 なぜだろう。①ノートに５行程度、考えたことを書　　く。　②ペアで交流する。 ③全体で意見を交流する。 | **○個人、ペア、全体、指名読等、さまざまな** **形での音読を繰り返し取り入れる。****（つまずき解消に向けた指導の工夫①）**○リズムよく、間髪入れずに指示を出す。 「ペアで」「全体でもう１回」「全体で軽蔑し　ていたまで」「すると、エーミールは〜、軽　蔑していたまで」「その瞬間〜、軽蔑してい　たまで」などと。○発問につながる重要な部分を繰り返し音読 させることで、考える視点を与える。○「最後の場面」の音読を繰り返し、「僕」の 告白に対する「エーミール」の反応と、そ　のときの「僕」の思いをとらえる。**○５行程度で簡潔に自分の考えを書くように**資料：生徒のノート① **指示する。****（つまずき解消に向けた指導の工夫②）**○「僕」がどういう思いだったのかを推測さ　せ、何度も読み返させながら、その思いが　表れている文を探すように指示する。○友だちの考えを聞き取り、ノートにメモさ資料：生徒のノート②せる。○たっぷりと音読させる。何度も音読させる ことで、情景や「僕」の心情をとらえやす くする。指示は、リズムよく。　・「念のためにもう１回」「登場人物の気持ちを考えながら読んでいるね」「内容を確かめながら読んでいるね」など、認め励ます言葉がけを大切にする。※発問１と同様に進める。資料：生徒のノート③⑤，生徒のノートまとめ |
| まとめ | ８　「僕がチョウを潰すきっかけになっ　　た場面」から最後までを音読し、本時の学習の振り返りをする。 | ○「学習計画表」の「今日の学び」欄に記入 　させる。資料：生徒のノート⑥学習評価表※計画表を授業の最初に配布し、ノートに貼り、授業の全体像をつかませておく。 |

『少年の日の思い出』を語る

「少年の日の思い出」を語る（１）

　　　　　　　　生徒作文①

　この物語を勉強して思ったことは、四つあります。一つめは、なぜ最初に部屋を暗くしたのか、二つめは、どうして話すのも恥ずかしいことを「私」に話したのか、三つめは、なぜチョウをつぶしたのか、四つめは、なぜ一つ一つ潰したのかということです。

　一つめの疑問のシーンでは、闇一面という文が最初に出てきます。物語の最後のシーンでも、「闇」の中ということで共通しています。客はあのときのつらく悲しい自分の気持ちを思い出しながら、語っていたからかもしれません。だから、表情を見られないように暗くして語り始めたのではないかと思います。

　二つめは、話すのも恥ずかしいことをなぜ話したのかという疑問です。おそらくチョウを見たときに、クジャクヤママユもワモンキシタバも蛾の一種で、そのうえ珍しいという点で同じだったから、思い出したのだと思います。もしかすると、人に話すことで過去の自分がしたことへの償いがしたかったのかもしれません。

　三つめは、なぜチョウを潰したのかということです。エーミールにチョウの思いを否定されて悔しかったのかもしれないけれど、なぜ潰したのでしょう。理由はおそらくエーミールへの謝罪が込められていると思います。

　四つめは、なぜ一つ一つ潰したのかということです。なぜ一度に潰したりせず、一つ一つ潰したのでしょう。おそらく「僕」は最後までチョウを大切に見ていたのではないでしょうか。だから、チョウに一つ一つに別れを告げる気持ちで、一つ一つ潰したのではないでしょうか。

「少年の日の思い出」を語る（２）

　　　　　　　　　　　　　　　　生徒作文②

　この小説の主人公となっている「僕」は、あらゆる点で模範少年となっているエーミールを妬み、嘆賞しながら憎んでいた。それは、「僕」がすることで、エーミールに勝てたことがないからだったが、「僕」はクジャクヤママユを潰してしまったその時から、エーミールに対する憎しみが申し訳なさに変わっていった。

　エーミールは、このクジャクヤママユを潰されることで、それまで「僕」に対してとくに感情がなく、お隣さんくらいの意識しかなかったが、軽蔑とともに自分がさなぎから返したクジャクヤママユを潰され、憎むようになったのではないだろうか。

　この事件のあと、「僕」は闇の中でチョウを粉々に潰してしまうが、それはエーミールに対する償いとともに、そのチョウたちを見ずに、すべてなくしてしまい、忘れようという気持ちもあったのではないだろうか。そう思うのは、「僕」が起こした事件は、クジャクヤママユから始まっていて、チョウを見ると、粉々になったチョウや事件を思い出し、心をしめつけてしまい、償いどころか何度もあの事件を見るような気持ちになるからかもしれない。

「少年の日の思い出」を語る（３）

　　　　　　　　　　　　　　　　　生徒作文③

僕は、この小説でとくにおもしろいと思ったのは、「僕」の色々なものに対する気持ちの変化です。初めは、エーミールを妬み、嘆賞しながら憎んでいましたが、そんなエーミールのチョウを盗み壊してしまった時、「僕」に少しの心の変化が出てきます。もう取り返しのつかないことをしてしまったという罪悪感です。「僕」はここでエーミールに謝りたいという感情が初めて出てきます。そして、覚悟を決め、謝罪した時には、エーミールに自分のチョウへの気持ちを否定され、「僕」は怒りのあまりエーミールの喉笛に飛びかかろうとします。このとき、チョウを壊してしまった事実とエーミールへの怒りがつのり、「僕」の気持ちは複雑だったと思います。最後には、自分の収集したチョウを潰してしまいます。償うことのできないことをした自分に罰を与え、チョウへの別れを告げようと思い、自分の手でチョウを一つ一つ潰したのでは、ないでしょうか。

また、同時にここで「僕」の成長を見ることができます。初めはチョウへの熱情があまりにも強く、チョウのことしか考えていませんでしたが、人のことを考え、エーミールに対して償おうとした気持ちは、「僕」にとっての進歩であり、成長ではないかと思いました。